



## 立体駐車場の上で見たものとは

前回から、5月末に姪と出かけた香港の様子などについて書いています。二十歳になった姪っ子は、ちょうど「インスタ映え」が気になるお年頃。今回は顔の形をした飲茶やレトロ喫茶などに出かけた話を書いたのですが、後半は「映えるエリア」です。

まず向ったのは「モンスターマンション」と呼ばれる、小さな部屋が無数に並んだ古くて巨大なマンション。香港は土地が狭い一方活断層が通っていない(巨大地震の心配がない)ため、空に届かんばかりの高層マンションが乱立しているエリアなのですが、そこはさらに横にも奥にも拡張された様子が、昔から一種の「観光地」にもなっているのです。そんな場所が、新たにインスタ映えの聖地になっているそう。

早速現地へ行くと、コの字型になったマンションの中庭に、既に沢山の人が。中庭中央には大きな台のようなものが置かれ、その上でアジア人の女性が建物を背景にポーズをとっています。そして同じように撮影しようとする人々が、近くに列を作っている様子でした。女性は少しすると降り、カメラを操作していた男性の画像を覗き込んで大声で何かを話すと、再び台に登ってポーズ。そんなことを何度も繰り返すので、待っている人達がイラッとしている雰囲気です。おそらく彼女はお気に入りの写真をアップするため、彼氏?に熱心にアドバイスし、彼の方も必死に撮影しているのでしょう。そんな様子を見ているだけで疲れてしまった我々は、結局台に登らず脇の方で写真を撮ってから移動することにしました。

次に姪っ子が行きたかったのは「穴の開いた場所」。……ん? 何それ? とにかく、大きな穴が開いたパステルカラーのコンクリートオブジェのような場所が、大人気だそうです。しかし地下鉄の最寄り駅からだいたい歩き、きつい勾配や果てしなく続くかに見える階段を何とか登り、たどり着いたのは「立体駐車場」。

ちょっと、本当にここなの!? 疲れ過ぎてけんか腰です。

しばらくキョロキョロしてもらちがあかないので、近くにいた清掃員のおじいさんに件の写真を見せると、その直後なぜか大笑いされ、人差し指を駐車場のの上の方へ向けるではありませんか。登っていけということらしいので、力を振り絞って屋上へ上がると、そこには穴が開いたパステルブルーの壁が、いくつか立っていました。

「あーっ、これかあ!!」と思わず叫んだものの、実物は特にこれといって美しいものでもありません。おじいさんが笑ったのは、きっと「なぜあんなものを探すのだろう?」という意味があったのでしょうか。しかし、いくつも空いた穴を上手く使って写真を撮ると、奥行きのある不思議な「映える写真」になるようで、私たちの他にも数組の先客が楽しんでいます。ここでは姪の気が済むまで、存分に撮影ができました。

そんなこんなでインスタ映え探しの旅は姪っ子が満足できたようで何よりでしたが、スマホ頼みで動き回ると「GPSが正確に表示しない」ことや、「インスタグラムに書いてある場所情報などが間違っている」ことがけっこうあり、自分で事前にしっかり調べておくべきということも、改めて実感しました。今回たびたび遭遇した熱心なインスタグラマーたちにはとてもかたや、また香港へ行くことがあれば、私ももっと素敵な写真が撮りたいと思っています。



モンスターマンション(左)と駐車場屋上にあるLok wah south estate

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)